



巻頭言

- 不測の事態発生に備え、BCP(事業継続計画)のさらなる想定範囲を
平常時から追求し、必要なサービスの継続ができる体制づくりを — 2
- 伴走支援プログラムに大阪府から補助金 せつつ桜苑 — 3
- 「災害ボランティアバス」に参加して 前田拓海保育スタッフ — 3
- にっこりキッズキャラバン来園 認定こども園一津屋愛育園 — 3
- 「保育者よ、10年後を見据え視野を広げよ!」 — 4
- 『地域一番店ネットワーク』 伴走型支援導入研修
- 「地域キャリア実習」受け入れ 岩戸ホーム — 5
- 先輩からのメッセージ — 4~5
- 松井萌恵さん(くるみ愛育園)/中原ひなたさん(吹田竜ヶ池ホーム)
- 食育 30センチに育てた恒例スイカ割り 東生野愛育園 — 6
- 七夕笹飾りを地域の高齢者に届ける 認定こども園正雀愛育園 — 6
- “たません”ってどんな味?! 地域の夏祭りに参加 高槻けやきの郷 — 7
- 「集中して書けました!」書道クラブ再開 サンヒルズ紫豊館 — 7
- トピックス — 8



世界で一つだけ 「オリジナルカップヌードル」を作る

ココリス(障がい福祉サービス:大阪エリア)では放課後等デイサービスを利用している子どもたち7名が体験型の食育施設「カップヌードルミュージアム大阪池田」へ出かけました(8月7日)。

国民食的な人気もあり館内は大賑わい。お目当ての世界で一つだけの「オリジナルカップヌードル」を作る工房へ。自分でカップをデザイン、スープと選んだ4つの具材を注文するのですが目移りが止まりません(写真左)。ようやく決まりパッケージングで完成です。

施設に戻り自宅に到着(送迎)すると、大事に抱えた「オリジナルカップヌードル」を差し出し自慢そうに報告する姿が見られました。



カップの中身を確認する子どもたち

海老、飾り切りナス、カボチャ… 天ぷらの「面前提供」に会話も弾む

高槻けやきの郷では7月4日、ご入居者の目の前で料理を仕上げ、味わってもらう「面前提供」を行いました。

ご入居者にとっては半年に一度行われているお楽しみイベント。今回は人気メニューの代表格「天ぷら」です。料理人(調理員)は、海老2本、飾り切りナス、カボチャ、えんどう豆と、キメの細かい調理技術で彩りや盛り付けを工夫します。「おいしそうやなー」「えーニオイ!」の声が上がり、サクサクに仕上がった逸品に、いつもより会話も弾んだようです。



「流しそうめん」を食べよう ご利用者16名の誕生日会

デイ・サービス 夢咲(生活介護:舞鶴エリア)では7月30日、16名のご利用者が誕生日会の企画で「流しそうめん」を体験されました。

屋外で竹流しを…といった風景が蘇るところですが、猛烈な暑さと衛生面から「(市販)流しそうめんキット」を使い食堂内で行いました(写真)。

流しそうめんキットは、ご利用者のご家族から「みんなで夏の思い出を」と寄贈されたものです。スタッフは「せめて器を竹製で」と青竹から制作。みなさん、「いつもと雰囲気違っていいなー」と大喜びでした。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2024年10月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!
成光苑ホームページ



巻頭言



不測の事態に備え、BCP(業務継続計画)のさらなる想定範囲の拡充を
平時時から追求し、必要な福祉サービスが継続できる体制づくりを

理事長 高岡 國士

日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、皆様の多大な協力とお力添えをいただき感謝とお礼申し上げます。

能登半島の「複合災害」に
官民挙げて復興支援を

さて、前号の「ききょう」夏号の冒頭でもふれさせていただき、石川県能登半島地震被災者の皆様へのお見舞いを申し上げたところであります。さらに追い打ちをかけるように記録的豪雨による甚大な被害が石川県にもたらされました。能登半島地震の被災地を豪雨が襲うという「複合災害」の発生により、さらに厳しい環境での暮らしを余儀なくされている方々、ご家族、関係者に重ねてお見舞い申し上げます。

ニュース報道などでも、被害に遭った住民の「心が折れそうだ」という悲痛な声が伝えられているところであり、官民を挙げて復興支援に向けた早急な取り組みを願うばかりです。

環境変化による福祉サービスの
中断は、ご利用者の困難を招く

少子高齢化や制度改正など社会福祉法人を取り巻く社会、生活環境はめまぐるしく変化しますが、社会福祉施設のサービスが中断すると、ご利用者の生活には大きな困難が生じます。自然災害、感染症の蔓延、突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、必要な福祉サービスを継続して提供できる体制づくりが必要であります。

BCP(業務継続計画)を策定する目的は、緊急時の被害を最小限に抑え、法人の各部門の重要業務を中断せずに、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させ、事業を継続することにあります。このBCPは、令和3年度の介護報酬改定時に3年間の経過措置を設けて、令和6年3月末までに、すべての介護サービス事業者に策定が義務付けられ、関係部門でBCP策定であるとの報告を受けています。

このたびの石川県を襲った災害は、今年2度目であり誰もが想定しづらい状況で

あったかもしれません。しかしながら、このことを対岸の火事とせず、策定したBCPのさらなる想定範囲の拡充について、平時時から追求していただくよう望みます。

既存制度の対象とならない
公益的な取り組みが重要

当法人は、社会福祉法人の本旨に則り、社会福祉事業にかかる福祉サービスの供給確保の中心的役割を果たすだけでなく、既存の制度の対象とならないサービスの提供、つまり地域における公益的な取り組みを継続していくことが重要です。その認識のもと、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行い、地域福祉の拠点として10年後も地域の住民から信頼りにされる社会資源になるために、地域に信頼され、愛される園・施設の運営に努めてまいります。関係各位には今後とも変わらぬご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

かがやき農園

人工受粉で
小ぶりのメロン「ころたん」

吹田竜ヶ池ホーム



比較:ころたん、スマホ

吹田竜ヶ池ホームでは8月28日、敷地内の畑に初めて苗植えた品種名「ころたん」と呼ばれるメロンやプリンスメロンを収穫しました。

「ころたん」は果重300~500g、一般的なメロンより小ぶり。ベランダや庭でも成長を楽しめる作りやすい品種。担当スタッフはYouTubeなどを参考にチャレンジしました。6月下旬、人工受粉に成功(写真上)、日に日に実が膨らみメロンらしくなると「えっ!こんなところにメロン?」と施設協の歩道から興味深そうに声をかける方も。受粉から約2ヶ月、ころたん、プリンスメロンを2個ずつ収穫。育てたスタッフが試食、初めてにしてはまずまずのようで、「来年はご入居者やご利用者のために収穫を増やしたい」と意気込んでいます。

「たません」ってどんな味?!

地域の夏祭りに出展し大人気

高槻けやきの郷

高槻けやきの郷の地域貢献推進委員会のメンバーが7月27日、高槻市立竹の内小学校で開催された恒例の地域の夏祭りに「たません」を模擬店出店、これが売り出し直後から行列整理に追われる大盛況となりました。



「たません」はローカルフードの一つで、お好み焼き風に味付けした目玉焼きが、えびせん(またはたこせんべい)にサンドされている食べ物。せんべいのパリパリ触感とふんわり卵に天かすのトッピング

が絶妙にマッチした味わい。

会場には同施設の在宅サービスのご利用者や「はにわキッチン@けやきの郷(子ども食堂)」の子どもたちも日焼けした元気な姿を見せてくれました。

「いつまでも美しく…」と記念品に整容品セット

ライフ・ステージ 夢咲で敬老式典



ライフ・ステージ 夢咲(地域密着型特養:定員29名)の地域交流スペースで9月9日、敬老式典が行われ鴨田秋津舞鶴市長はじめ地域の関係者、成光苑からは高岡國士理事長、同京都エリア4

施設長が出席し、ご入居者が長寿のお祝いを受けられました。同施設の最高齢入居者は103歳で、91歳と米寿(88歳)の節目の年を迎えられた方とご家族も招き、他のご入居者のみなさんと一緒に祝いました。

山本幸一郎施設長からは、「いつまでも美しく元気で過ごしていただきたい」という思いで介護スタッフが選んだ「整容品セット」が記念品として贈呈されました。

人生はこれから!
友だち、地域の輪を広げよう

老人大学「せつつ桜苑講座」開講



令和6年度摂津市いきいきカレッジ(老人大学)の「せつつ桜苑講座」が8月23日、せつつ桜苑に併設される摂津市老人福祉センター(摂津市から受託)で開講式を行い、森山一正摂津市長(当時)はじめ同市老人クラブ連合会関係者、成光苑から高岡國士理事長らが出席されました(写真)。

受講者は同会場の44名、リモート合同開講式となった別会場の摂津市立老人福祉センターふれあいの里では24名、合わせて68名。「人生はこれから!」と「どんどん広げよう 友だちの輪・地域の輪」をテーマに4ヵ月間、選択した専門科目(健康、美術など)と一般教養科目を受講(全17回)されます。

「久しぶりに集中して書けた!」

書道クラブ再開で筆揮う

サンヒルズ紫豊館



サンヒルズ紫豊館は8月29日、コロナの影響で途絶えていた書道クラブを5年ぶりに再開、特養・ケアハウスのご入居者12名が参加されました。

書道講師は地域にお住まいの足立俊司氏(写真右上)。足立氏のご家族が同施設で介護サービスをご利用されたことがあった

ご縁で、10年以上も熱心なご指導が続いています。「短い時間ですが筆(書道)を楽しんでもらいたい」と足立氏、「久しぶりに集中して書けた!」とご入居者も満足のご様子。作品は廊下一面に展示されました。

会場を包むオカリナの調べ



オカリナ同好会来訪

岩戸ホーム

岩戸ホームに8月28日、オカリナ同好会(福知山ボランティアセンター登録)のみなさん10名が来訪、サポートハウス(ケアハウス)ご入居者を含め39名の方が演奏会に参加されました。

キーボードと9名によるオカリナの重奏(写真)では大きな拍手。演奏者も音楽に合わせて手あそびや簡単な体操などご入居者と一緒に行いました。オカリナを指導されている方のソロ演奏では表現力と独特の丸みを帯びた音色が会場を包み「よかったー」の声が聞かれました。

ねびり鉢巻き 「あ…わっしょいわっしょい!!」

くるみ愛育園

くるみ愛育園の5歳児(18名)は8月1日、地元(大阪市生野区大友地域)の「だんじり祭り」に参加しました。赤ん坊の頃から「だんじり(木製の山車)」に親しんでいる子どもたちは、馴染みのお囃子が聞こえてくると自然に身体が反応するようです。豆絞り(手拭い)をねびり鉢巻きで粋に決め込み、だんじり曳行へ!大人と一緒に力強くゆっくり2,600kgもの立派なだんじりの縄を引き、「あ…わっしょいわっしょい!!」と掛け声も威勢よく園の周り地域を練り歩きました(写真)。



地域の「だんじり祭り」に参加

30センチに育てた恒例のスイカ割り

東生野愛育園

東生野愛育園の幼児クラス(3~5歳)で8月20日、恒例のスイカ割りを園庭で行いました。食育の一貫として5月下旬、園庭脇の畑に苗を植え、「水やり当番」を決め大切に育てました。7月下旬、「小っちゃいスイカができてる!」と大喜びで駆け寄る子どもたち。観察しながら育てたスイカは30センチほどに成長しました。当日、「右!右!」「まっすぐ!」スイカを割る子はみんなの声援を受け棒を振り下し見事命中。割れたスイカは調理スタッフが切り分け、夏の風物詩の余韻を感じながらおいしくいただきました。



プロジェクト 収穫編 新鮮な夏野菜 ナスやオクラ

給食の献立材料に 園児にも好評 認定こども園千里丘愛育園

認定こども園千里丘愛育園の5歳児クラスは2班に分かれ、8月6日と19日の両日、自園のマイクロバスを利用して「かがやき農園プロジェクト」展開中の茨木市佐保地区の畑に出かけ夏野菜を収穫しました。(写真)5月に同園で種から育てた苗を同畑地に苗植えをした無農薬野菜ナスとオクラ。いずれも立派な食材に成長。子どもたちは畑にまっしぐら「あれ(種・苗)がこんなに大きい!」と驚きの様子。収穫した野菜は給食の献立材料となり、ちょっと野菜嫌いの園児にも好評でした。



七夕笹飾りを地域の高齢者に届ける

認定こども園正雀愛育園



認定こども園正雀愛育園の5歳児クラスは6月26日、地域の高齢者10名を招き、七夕笹飾り製作と一緒に楽しみました。同クラスは4グループに分かれ、7月3日に高齢者宅(23戸)を訪問し、七夕笹飾りを届けました(写真)。元気よく挨拶すると「暑い中を今年もありがとうね」と労いの言葉をかけられ、ちょっと照れた様子。これからも地域との繋がりを大切に子どもたちの成長を見守っていきたくと考えています。

「登る」を取り入れ総合遊具を改修

認定こども園きりん愛育園

認定こども園きりん愛育園は7月下旬、総合遊具の改修を行いました。以前に設置した木製総合遊具の劣化に伴うものです。今回、遊具にはクライミングや肋木(姿勢の矯正や身体各部のトレーニングを目的に使用される遊具)など「登る」を多く取り入れたほか、新たな遊具には、太陽光の反射作用でステンドグラスのように鮮やかな色や模様を映し出す仕組みも。設置後の5歳児クラスの記念撮影までの待機時間に早くもすべり台の階段前に長蛇の列。「順番!順番!」の保育スタッフの声にも見守られ、元気よく遊具に興じる子どもたちの歓声が響き渡りました。



(※1)伴走支援プログラム「業務や書類を効率化し、もっとご利用者と向き合う時間を」といった課題解決を目指す事業所を対象に、大阪府介護生産性向上支援センターが介護ロボット・ICTの導入・活用など研修会を通じ伴走的に支援するプログラム

せつつ桜苑は7月31日、令和6年度大阪府介護ロボット導入支援事業補助金II伴走支援プログラム(※1)の対象事業所選ばれた。同プログラムには多くの施設・事業所がエントリー(256法人、337介護サービス施設・事業所)、その内から選ばれた20事業所の一つに入ったもので、成光苑としては昨年の吹田竜ヶ池ホームに続いて2施設目。せつつ桜苑は、大阪府介護生産性向上センターが6月に実施した介護ロボット・ICT活用支援セミナーに参加、見守りセンサーとインカム(※2)を導入する計画。

見守りセンサーはご入居者の異変時の早期検知や生活リズムを視覚化し個別ケアの充実に繋げること。インカムはスタッフの移動負担を軽減し、効果的かつ効率的なコミュニケーションを図ることで多職種連携を強化、よりスムーズなサービス提供を目指したいと考えています。同施設は介護ロボットを実践的に導入活用していますが、スタッフの身体的負担を軽減し、雇用環境改善や離職防止・定着促進、学生の施設見学や実習生の受け入れアピールの視点からも期待しています。

介護ロボット・ICT活用支援セミナー
2024年6月21日(金) 13:00~15:00
会場: 大阪府介護生産性向上支援センター
講師: 大阪府介護生産性向上支援センター 職員
参加費: 無料
申し込み: 大阪府介護生産性向上支援センター 受付

見守りセンサー、インカム導入へ 伴走支援プログラムに大阪府から補助金 個別ケアの充実、スムーズな多職種連携強化を目指す

せつつ桜苑

にっこりキッズキャラバン来園 映画紙芝居で健康や安全を楽しく

認定こども園一津屋愛育園に7月2日、「にっこりキッズキャラバン(※)」のスタッフ2名が専用キャラバンカーで来園イベントを実施、幼児クラス(3~5歳児80名)が参加しました。キャラクターの「にっこりくん」の映画紙芝居(写真)が行われ、生活習慣の基本となる食事・睡眠・運動・挨拶をテーマに、映像を観ながら学習。ミュージカル仕立てで音楽に合わせて一緒に踊ったり歌ったり。「やくそくできるかな」の同紙芝居では交通安全・仲良く遊ぶ・屋外で遊ぶといった内容。「子どもたちへの伝え方も参考になった」と関心を高めたスタッフの声もありました。

(※)にっこりキッズキャラバン 幼稚園・保育園の子どもたちに楽しく健康づくりを学んでもらう無料訪問イベント。「大阪府を笑顔あふれる明るい社会に」(大阪府民共済生活協同組合主催)との願いで2006年から活動



能登半島地震復興支援

災害ボランティアバスに参加して

吹田市社会福祉協議会施設連絡会が実施した「能登半島地震復興支援ボランティアバス」に参加しました。7月17日から18日、志賀町災害ボランティアセンター(石川県羽咋郡)を拠点に復興支援活動を行いました。ボランティア参加者は主催者除き18名。現地ボランティアアセンブリーまで往復バス移動。初日は、大阪を午後1時に出発し、富山県高岡市の宿泊先まで移動のみ。翌日午前7時に出発し約2時間、山間を抜け日本海を望みながら被災地へ。やがて地割

れた旧国道、応急処置のブルーシートに覆われた屋根や壁面、取り壊し工事の様子を目の当たりにし、深刻な被害状況を一気に受け止めることになりました。ボランティア活動(二人一組)は午前9時~午後2時まで。まず、倒壊したコンクリート壁をハンマー、ボールなど重い工具を使って砕き、軽トラックで集積所まで運搬しました。

悩まされたタンスを磨りながら「これ(タンス)、嫁いできた時の…」ともたらされた声に、慰める言葉も見つかりませんでした。地震発生から半年以上経過していましたが、厳しい暑さに加

え、日常を取り戻すにはまだまだ時間がかかるのでは!と思っただいた先の9月21日、能登半島は豪雨に見舞われ、再び大きな被害に直面されています。一日も早い復興をお祈りするばかりですが、これからも微力ながら様々な方法で支援活動に関わっていきたくと考えています。

(認定こども園きりん愛育園 前田拓海 保育スタッフ)

「このタンス、嫁いできた時の…」と
もたらされた被災者の声に慰めの言葉もなく



フィリピンから特定技能介護2名 特養で就業開始

ライフ・ステージ 舞夢

特定技能介護としてフィリピンから来日されたルーンブレイ・アンジェラさん(写真左)とラワーグ・クラリッサさん(同右)が8月13日からライフ・ステージ舞夢(舞鶴市)の特別養護老人ホームで就業を開始しました。



お二人とも来日は初めてですが、同国の先輩スタッフと3名で寮生活をしています。笑顔で挨拶し、メモを取ってわからないことは質問するなど仕事に対しても積極的でスタッフから高評価です。同施設では、現在、特定技能介護スタッフは7名在籍中でお互いの価値観を理解しながら、日本での生活を支援していきたくと考えています。

保育者よ、10年後を見据え視野を広げ、対応能力を身に着けよ！

「地域一番店ネットワーク」



伴走型支援導入研修に保育スタッフ69名

保育部門では、一般社団法人「日本保育チームマネジメント協会」（代表理事・上田まどか氏）が5月11日、大阪市内の貸会議室ラミで実施した「地域一番店ネットワーク」（*1）の伴走型支援（*2）導入研修（事前ガイダンス）に非常勤含む多職種の保育スタッフ69名が参加しました。保育者個人のキャリア形成のためのリスクリング（学び直すこと）の機会、力を蓄える機会となり、成光苑の10年後を見据えた取り組みにも連動するものと捉えています。

研修コンセプトは雇用形態、職種を問わず、個々の保育スタッフの価値観を高めること。①少子化・人口減少②高度デジタル化社会 ③長寿社会を迎え、社会の仕組みや生き方も変わっていく

価値観の変化の時代

現場の実践以外の課題も設定されているのが特色です。

伴走型支援研修はその後、本格的に始まりましたが「自分が選んだものの何から着手したらいいのか」などの戸惑いや「やると決めたからには頑張りたい」といった声も聞かれました。

同協会創始者で前代表理事の吉田幸宏氏（写真右上）は研修で「自分自身が成長するため視野を広げ、多くの人たちと繋がりを、自分の新たな可能性を発見する機会にしてほしい」と期待を寄せられました。

保育の在り方を見つめ直す

「人権保育研修」に60名

保育部門では6月13日、弁護士法人かなめ・梅崎啓示弁護士を講師に「不適切な保育をなくすために」予防と発覚時の対応」をテーマに「人権保育研修」が行われました。オンライン形式で保育スタッフ60名が参加しました。

「不適切保育」とは定義が難しいため、他の保育現場で実際に発生した重大事例（事故・事件）をもとに、時代に合った子どもたちへの関わり方、組織（園）として未然に防ぐポイント、発生した時の対応などに言及。その一つに、「価値観の多様化に伴い、園全体で現状の保育の在り方を見つめ直す」と同時に、保育者個人も自分を振り返る機会が必要。さらに虐待や子どもの人権について理解・知識を高め、実践に繋げることが大切」と指摘されました。



先輩からのメッセージ



中原 ひなた
吹田竜ヶ池ホーム
2024年度入社

高齢者施設で働く祖母、母を見て介護の仕事に興味を持ちました。施設実習で現場体験、もっと高齢者の方と深く関わりたい...と自分のどんな所が今の仕事に生きていけると感じますか？

祖母、母が高齢者施設で働いているので、前々から介護の仕事に興味があり、大学3回生の施設実習で、初めて施設の現場を体験し、もっと高齢者の方と深く関わりたいという思いになりました。

成光苑に入社して、ご入居者からの「あんだ、今日はもう帰っちゃうの...寂しい」という言葉に、私の明るい性格や笑顔が介護の仕事にも生きていけると感じます。



松井 萌恵
くろみ愛育園
2024年度入社

自分から一番の笑顔で挨拶すると決めていきます。私の笑顔が相手の笑顔に繋がればいいなあ。自分のどんな所が今の仕事に生きていけると感じますか？

私は笑顔で接するよう心掛けていること、何事もプラス思考で考えるようにしている性格が、保育の仕事に生きていけると感じています。

子どもや保護者、同僚の先生などへも、必ず一番の笑顔で自分から挨拶すると決めていきます。私から笑顔で挨拶することで、相手も笑顔になることに繋がればいいなあと思っています。子どもたちには無限の可能性があるので、これからはポジティブな言葉かけと笑顔で見守っていきたくと思っています。

先輩の指導、充実の研修制度で成長している実感 社会人になって役立つ、ゆとり時間を作る工夫を

— 学生の皆さんにメッセージを —

福祉系大学では社会福祉学、社会福祉士、学びました。分野が違ったので、介護技術や専門知識を十分に身に着けずに入社しました。直後は不安な毎日でしたが、先輩方のご指導や研修制度が充実していることで、少しずつ確実に成長していることを実感しています。

最近では、身体共に少しゆとりができてきた気がします。ですので、仕事終わりに美味しい食事に行ったりすることが楽しみになっています。目標が決まったら、今からでも時間を工夫するように心がけると、社会人になっても役立つと思いますよ。

地域キャリア実習 (インターンシップ)

地元大3年生を受け入れ 岩戸ホーム

岩戸ホーム（福知山市）は福知山公立大学地域経営学部の3年生（1名）を「地域キャリア実習（インターンシップ）」として受け入れました。期間は8月3日から5日間。同大学のカリキュラムの一環で、学生に地域の企業（法人）などをより広く知ってもらおうねら。

今回のインターンシッププログラムは「岩戸ホームがどのようなツールと方法で、どんな内容を発信し、多くの人に知ってもらっているか」という情報発信の取り組みがテーマ。

初日は施設と鴨野町自治会共催の夏祭りを主に取材、同施設で運用しているSNSを用い（承諾済み）夏祭りの様子を投稿（情報発信）。介護現場や地域との関りも積極的に取材されました。

最終日には「岩戸ホームにおける情報発信の提案」と題しプレゼンテーション（写真）。単なる学生の就業体験に留まらず、地域の魅力向上や若い世代の視点からSNSを地域経営環境に合わせて有効に活用するポイントなど成果発表が行なわれました。この機会を生かし進路の方向性を決めるきっかけに役立てて欲しいと願っています。



地域の魅力引き出す情報発信を実践

大学との連携・次世代の地域福祉人材育成に協力

相談援助実習

福祉の専門職を目指す大学生 京都エリア3施設が受け入れ

成光苑京都北部エリアの厚デイサービスセンター、サンヒルズ紫豊館、岩戸ホーム（いずれも福知山市）は「社会福祉士」の国家資格取得を目指している大学生の「相談援助実習（180時間）」を受け入れました（8月19日～9月24日）。

この学生さんは福知山市出身の4年生（写真左）で、福祉の専門職になるため、京都市内の佛教大学で学ばれています。成光苑と同大学との良好な関係が築かれ、また同大学出身の先輩も多く在籍していることも、実習先選ばれた理由のようです。

学生さんは「大学で学んだことを（福祉の）現場で実践できたのは、スタッフの丁寧な指導のお陰。卒業後は福知山市に戻って（Uターン）就職したい」と話され、スタッフも「いずれ一緒に働く仲間になれば」と願っています。



「故郷にUターンして働きたい」